


「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 年 12 月 25 日

所属部局・職	霊長類研究所・修士課程学生
氏名	瀧山 拓哉

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)
西表島
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)
西表実習
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
平成 29 年 11 月 11 日 ~ 平成 29 年 11 月 15 日 (5 日間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
琉球大学熱帯生物圏研究センター、梶田忠教授
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
沖縄県西表島で実施された、西表実習に参加した。西表島は東洋のガラパゴスとも称され、イリオモテヤマネコをはじめ多数の固有種が生息しているなど、独特な生物群を維持しており、島内ほぼ全域が西表石垣国立公園の公園区域に指定されている。本実習ではこのような西表島固有の様々な自然を観察し、日本の自然に関する理解を深めることができた。
日程 11 日 移動(犬山→西表島) 12 日 マングローブ林のトレッキング, カヤック, 浦内川クルージング 13 日 サンゴに関する講義, シュノーケリングによるサンゴ礁の観察 14 日 イリオモテヤマネコに関する講義, 西表野生生物保護センター訪問 15 日 移動(西表島→犬山)
あいにくの雨模様で、スケジュールを大幅に変更することになってしまったが、西表島の自然を十分に楽しむことができた。 これまでマングローブは、高校生物の知識として「オヒルギ、メヒルギ、ヤエヤマヒルギ」と半ば呪文のように覚えていただけであった。同じように「ヒルギ」という名前がつくので、似たような植物かと漠然と思っていたが、実際に見ると姿が異なり、根の形もそれぞれ膝根、板根、支柱根と違う特徴を持っていると、いうことを学ぶことができた。教科書で読んだ知識で知った気にならず、本物を見て生きた知識を得ることができた。

マングローブ林散策の様子 (写真提供：琉球大 北野さん)

## 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

クルージングやシュノーケリング、西表野生生物保護センターでは西表の特殊な環境とそれが直面する危機について理解を深めることができた。特にイリオモテヤマネコに関する講義では個体数が100-150頭ともいわれているイリオモテヤマネコを保護するために様々な試行錯誤を行っているということを知ることができた。交通事故から守るために道路に柵を設置したが、策を飛び越えるイリオモテヤマネコの映像がカメラに写っていたなど、有効な解決策を探すために苦労していることが伺えた。その一方で、柵の設置などの保護策が沖縄県の出資によるものであったり、西表野生生物保護センターにイリオモテヤマネコの目撃情報をまとめたマップがあったりなど官民学が一体となって保護に努めているのはこれからの保全に大きく資するのではないかと感じた。

これまで沖縄県自体、訪問したことがなかったため、終始西表の自然に圧倒された実習であった。西表にただ「行った」だけにしておくのではなく、今後も機会を作って西表や石垣の自然環境について理解を深めたい。



設置されたカメラトラップ



西表野生生物保護センターに設置された剥製



電線にとまったカムリワシ、このほかにも実習中には様々な生物部出会うことができた

### 6. その他 (特記事項など)

現地で対応、指導してくださった琉球大学熱帯生物圏研究センターの皆様、松沢先生、幸島先生、福島先生、川上先生には非常にお世話になりました。ありがとうございました。本実習はPWSの支援を受けました。航空券等手配してくださった支援室の左海様、秋山様にもこの場をお借りして御礼申し上げます。